令和６年度　国立夜須高原青少年自然の家　教育事業報告

「　ふくおかきっずアドベンチャーキャンプ　」

～　第３回　フォレストキャンプ　～

１　趣　　旨　　福岡県内に住む小学校4～6年生の児童を対象に、各青少年教育施設での特色を生かし、SDGsの観点を取り入れながら自然・生活体験と「鍛ほめ福岡メソッド」を位置付けたプログラムを経験させることを通して、自尊感情や向上心、困難に立ち向かう心等を伸ばし、自律的に成長するための基礎を養う。

２　主　　催　　福岡県国公立青少年教育４施設連携協働事業実行委員会
国立夜須高原青少年自然の家　　福岡県立社会教育総合センター
福岡県立英彦山青年の家　　福岡県立少年自然の家「玄海の家」

３　主　　管　　福岡県立社会教育総合センター

４　企画・運営　　福岡県「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会

５　期　　日　　令和６年１０月１２日（土）～１０月１３日（日）【１泊２日】

６　場　　所　　国立夜須高原青少年自然の家

７　対　　象　　福岡県内に住む小学校４～６年生の児童　計２４名

８　参 加 者　　２１名（小４：９名、小５：８名、小６：４名）、学生ボランティア４名

９　日　　程　　○１０月１２日（土）
開会式、夜須高原の森散策、竹切り体験、昼食、竹箸づくり、テント設営に挑戦、野外炊飯（豚汁定食）、ふりかえり
○１０月１３日（日）
野外炊飯（ホットドッグ）、ストレートハイク、昼食、ふりかえり、閉会式

10　活動の実際

【開会式】

【竹切り体験①】

【竹切り体験②】

【テント設営に挑戦！】

【竹箸づくりに挑戦！】

【野外炊飯（豚汁定食）】

【ストレートハイク①】

【ストレートハイク②】

【ふりかえり】

10　感　　想

○　みんなで協力することが大切だとわかりました。次回は自立を頑張りたいです。
○　とっても楽しかった。みんなとのきずなも深まったのでうれしかったです。
○　想像していた以上に楽しかった。竹で色々な物を作れることを知った。
○　初めての人とも協力すると色々楽しくできることに気付いた。
○　夜須高原の森はクモがたくさんいることを知った。いのししのすみかがあっておもしろかった。
○　朝つゆや夜つゆでテントが意外とぬれていた。

11　成　　果

○　目標設定の場面では、前回（玄海の家）のふりかえりを確認する活動を行い、Ｂｅｉｎｇを用いて班の課題を共有することで、目標設定につなげることができた。また、２日目のふりかえりでは、目標達成に向けて班で頑張れたことや、次回さらに頑張りたいことを共有する活動を行った。参加者たちは２日間のキャンプでの課題解決を通して、自分に自信を持ったり、班の仲を深めたりすることができた。
○　「野外炊飯（豚汁定食）」では、チームクッキングを位置付け、①初めて行う役割を分担する、②方法や安全面について教え合う、③終わりの時間を設定することに挑戦した。初めて担う役割に教え合いながら挑戦すること、見通しをもって活動することで、班がチームとして機能する姿を見ることができた。
○　ストレートハイクでは、コミュニケーションを図りながらゴールを目指し、急な斜面など一人では登れない場所も、自然と手を取り合うなど、協力し合う姿が多く見られた。
○　レジリエンス測定（事前・事後）を実施したところ、全体の変容が５．９ポイント見られた。中でも「自己効力」の変容が４ポイント見られるなど、参加者にとって自信をつける活動となったことが分かった。
○　事前打ち合わせを密に行うことで、スタッフやボランティアの関わり方が共通認識（成長を見守る立ち位置、危険行為の注意と制止、ルーブリック評価の活用）され、同じベクトルで参加者や班に関わることができた。

12　課　　題

○　福岡県立３施設との共催事業として実施した。今後も事前・事後打ち合わせを実施し、４施設の連携・協働体制の在り方、事業の趣旨や段階的で連続性のあるプログラム内容の検討など、計画的・組織的に取り組む必要がある。
○　チームの発達段階に応じて、目標設定の高低および活動プログラムの強弱を促したり、選択させたりする関わりや準備が必要である。
○　ボランティア４名の内､全４回を通しての参加者は２名であった｡子どもの変容を見取るためにも、全４回通しての参加が望まれる。来年度は、４施設が早い段階から広報を行ったり、大学等に出向いたりして、新規ボランティアの確保、育成を目指したい。